

子規の川虚子の山あり鳥わたる

藤田湘子

子規も虚子も、伊予の松山の生まれである。

しかし、何故か愛媛では子規の評価が高く、七つ年下の虚子への評価が低く感じられる。

二人の父親は共に松山藩士であったが、長男の子規と五男の虚子。そのうえ九歳で祖母の実家の高濱家を継ぐため養子に出されたことなども明治の時代背景の中で影響しているのだろうか。

明治四十三年に虚子一家は鎌倉市に移住したが、子規もまた、明治二十八年十月の再上京以後は根岸に住み、松山から母と妹を呼び寄せ亡くなるまで療養していた。

松山を流れる重信川や石手川、松山城の聳える城山や北部の高縄山も懐かしく、野鳥の渡りも見えるだろう。

1990年（H2作）第九句集『前夜』 鑑賞・轍郁摩